

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成23年4月7日 (2011.4.7)

【公開番号】特開2009-198889(P2009-198889A)
 【公開日】平成21年9月3日 (2009.9.3)
 【年通号数】公開・登録公報2009-035
 【出願番号】特願2008-41456(P2008-41456)
 【国際特許分類】

G 0 2 B 26/10 (2006.01)

G 0 2 B 26/12 (2006.01)

B 4 1 J 2/44 (2006.01)

H 0 4 N 1/113 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B 26/10 F

G 0 2 B 26/10 B

G 0 2 B 26/10 1 0 2

B 4 1 J 3/00 D

H 0 4 N 1/04 1 0 4 A

【手続補正書】
 【提出日】平成23年2月18日 (2011.2.18)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

光束を出射する光源と、前記光源からの光束を被走査面に偏向する偏向素子及びこの偏向素子を駆動するモータを備えた偏向器と、前記光源、前記偏向器を収納する光学箱を有する光走査装置において、

前記偏向器の周囲を囲うように前記偏向器と対向するとともに、前記光源から前記偏向素子に向かう光束を通過させる第 1 開口部を有する第 1 壁部と、前記第 1 壁部の前記偏向素子の側と反対側に設けられ、前記光源から前記偏向素子に向かう光束を通過させる第 2 開口部を有する第 2 壁部と、前記第 1 壁部と前記第 2 壁部とを連結させることで、前記第 1 開口部及び第 2 開口部を除く側面が覆われた空間が形成されることを特徴とする光走査装置。

【請求項 2】

前記第 1 壁部は、前記偏向素子の中心軸と同心円状に配置されていることを特徴とする請求項 1 に記載の光走査装置。

【請求項 3】

前記光学箱の開放面を封止する蓋部材を有し、前記第 1 開口部と第 2 開口部は、前記光学箱と前記蓋部材の組み合わせによって形成されていることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の光走査装置。

【請求項 4】

前記光走査装置は、前記光源からの光束を前記被走査面に走査することにより、異なる色トナーにてトナー像として現像される静電潜像をそれぞれ形成可能であり、前記光源は、各色毎に対応する静電潜像をそれぞれ形成すべく複数の光源を有していることを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載の光走査装置。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００９７

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００９７】

【図１】実施例１における画像形成装置の概略構成模型図

【図２】図１の部分的な拡大図

【図３】蓋部材（上蓋）を取り外して光学箱の内部を見せた状態の光走査装置の斜視図（俯瞰図）

【図４】蓋部材を取り外して光学箱の内部を見せた状態の光走査装置の平面図

【図５】図３において偏向器が配設されている部分の拡大図

【図６】図４において偏向器が配設されている部分の拡大図

【図７】図６の（７）－（７）線に沿う拡大断面図

【図８】偏向器の外観斜視図

【図９】レーザユニットの副走査断面図

【図１０】１つの光源から１つの被走査面に至る入射側光学系変換光学系と結像光学系の展開図

【図１１】実施例１の光走査装置の光学箱内の空気流についてのシミュレーション画像

【図１２】比較例として、第１と第２の絞り形状部を設けない構成の光学箱の内部を見せた平面図

【図１３】図１２の光学箱内の空気流についてのシミュレーション画像

【図１４】実施例２の光走査装置の説明図